



旧甲山高等女学校跡地より城山を仰ぐ

世羅高 同窓会会報

発行
広島県立世羅高等学校
同窓会報編集委員会
世羅郡世羅町本郷870番地

第六号発刊によせて



同窓会長 小島 敏文
(昭44高卒)

会員並びに地域の皆様には、平素、本会の運営につき格別のご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、世羅高校は、平成一八年に創立百十周年を迎えます。その記念事業の企画・立案のため同窓会として「世羅高校創立百十周年記念同窓会実行委員会」を組織し、具体的な事業の検討に入ろうとしております。今後、皆様のご協力を得ながら、実のある記念事業の実現に向けて努力していきたいと考えています。

節目の年を前に、母校の歴史をひもときながら、本校の伝統とは何かと問うとき「文武両道」ということが浮かんで来ます。

まず「武」の面では、輝かしい歴史を刻む陸上部の駅伝がありま

す。

今年の十一月に行われた全国高校駅伝県予選において、男子チームは二年ぶりの優勝を成し遂げ、暮れに京都で開催される全国大会への出場権を獲得しました。女子チームも三位に入る健闘を見せました。

その他の運動部においても、剣道部・空手部・野球部などの活躍に手ごたえを感じます。

「文」の面では、吹奏楽部・美術部・書道部・写真部その他の文化系クラブの活躍や、各学科の、世羅台地から全国・世界へ向けて二十一世紀を切り拓く豊かな人間性に根差した知識・技術を発信しようとする斬新な工夫・努力、そして国際交流の推進に、力強い未来と活力を感じます。(国際交流の一環として、今年度は台湾への修学旅行が、生徒・教職員一行に、同窓生や地域の人々の参加を得て実施されました。)

このような在校生・教職員の活動を支援するために、私たちは学校設備の充実に努めねばなりません。例えば、本年度は、新たに第二情報教室の設置、教室へのエアコンの設置、食堂の開設などの学習環境の整備がなされました。今後は、体育館新設という大きな夢があります。

私たち同窓生は、母校が有為な人材を世に送り出す「名門校」であってほしいという願いと、私た

ちふるさとの発展を支える「地域の学校」であってほしいという願いを持っていきます。

昨年度から、本校では「セラ・シニア・シチズンカレッジ」が開校され、地域の人々が生徒と一緒に美術・音楽・書道・パソコン・農業などの授業を受けることが出来るようになりました。また、本年四月から校内の庭園を整備して遊歩道を設け、オーブンガーデンとして地域に開放されるようになりました。今後も学校前の堀の活用、グランド周辺の芝生緑化など、地域の文化公園としての研究が進められていくようです。

先日の中国新聞には、農家アンケートに基づいて、十年後、広島・山口・島根三県の中山間地域では、農業の担い手のいない農家が六十%以上になるという予測が載りました。このような時、ふるさとの人材を育てる視点から、世羅町や地域の果樹部会などの団体と連携して、農園起業家育成の新しい試みが母校で始まっていることは誠に心強い限りです。

世羅高校が「文武両道」の名門校として復活することはもとより、ふるさとの発展を支える「地域の学校」として益々発展し、平成十八年の創立百十周年が、学校・同窓会、そして地域をあげて盛大に祝福されることを記念し、第六号発刊にあたってのご挨拶といたします。

世羅高校の 教育改革



校長 田邊 康嗣

一 「平成の金字塔」を打ち立てる
 本校は平成一八(西暦二〇〇六)年に創立百十周年を迎えます。振り返れば、本校は全国高校駅伝において昭和二五・二六年の連続優勝を含む四回の優勝と上位の成績により、「駅伝世羅」の名を不朽のものにし、進学においても、昭和四十九年の国公立大学合格者三十四人を初めとして「備北の名門」と呼ばれるような伝統を打ち立ててきました。しかし、平成に入ってから、「失われた十五年」と揶揄されるように両分野において低迷が続きました。私は、百十周年に向けて全国高校駅伝でのアベック優勝、国立大学合格四十人という「平成の金字塔」を打ち立てたいと考えます。本校の教育改革は、この常識はずれの高い目標に向かって教職員・生徒・保護者・地域が変わり続けていくことであると考えています。二 どうしたら生き残れるかを追求する
 前述の高い目標を口にしただけ

で、「とても無理だ。実態を知らない。」という否定的な反応が返って来ます。今、規制緩和のもとに特色ある学校づくりが求められ、生徒が学校を選択する時代が到来しました。加えて、中山間地域の少子化・高齢化は急速に進み、八年後には郡内の中学校卒業生の数は百四十人台まで減少します。私達は中学生があこがれる、「ありたい学校」を目指して高いリスクと目標に挑戦しなければなりません。本校は平成十三年度に四十五分七時間制、十四年度に総合選択制、習熟度別授業の導入、ケニア共和国生徒の受け入れ、十五年度に学力向上フロンティア事業・特進クラスの導入、十六年度から学校経営改革モデル事業というように創立百十周年の「金字塔」を目指し変化を続けています。

科代表者会議における学力分析・一人一研究などを通して、自分で考え自分で仕事を工夫できる人材への高まりを追求しています。
 四 組織で仕事をする
 目標が高ければ高いほど教職員の協力関係が大切になり、目標達成のために協力を惜しまないネットワークが求められます。組織というものは「人は優秀だが、チームとして機能しない」ということがよくあります。公式・非公式を問わず、様々な人間関係の中で互いに人に関し仕事に関しての情報を豊富につくって、相談出来る、相談したくなる関係を築いておくことが必要です。

校」の実現に取り組む地域立脚型の学校経営を進めています。
 五 目標達成の道筋をつくる
 「ありたい学校」をイメージする際に大切なのは「実現したい」という熱意であり、この熱意をもとに「まずやってみる」ことから実現のアイデアや手がかりが開けると考えています。

三 自分で仕事をつくる
 「金字塔」を打ち立てるためには今日の仕事に加えて、明日の仕事の準備をすることが求められており、そのためには今までの授業や部活動の指導方法などの問題点を分析し対策を講じねばなりません。本校は学校経営改革モデル事業の指定を受け、校務運営会議のコミットメントシートの導入・教

また、教職員だけでなくPTAや同窓会・学校評議員・外部評価委員・「世羅高校を育てる会」・各種後援会・国際交流推進会議などの本校を支援いただいている人々とのネットワークが出来ています。さらに、「昭和町学園通りをつくる会」や果樹部会、「六次産業ネットワーク」などの地域の人々との連携の拡大を図り、地域が一体となって「ありたい学

筋のないまま、私は駐日ケニア共和国大使館を訪ね、協力を要請し、その結果、ケニア共和国の先生や生徒募集の手がかりを得ることが出来、平成十三年にケニア共和国の英語講師、十四年に男女二名の生徒を受け入れ、十六年に更に二名の生徒の受け入れという道筋で展開しました。
 出来るかどうかではなく、生き残るために必要かどうか、初めからうまく行くという成算や道筋があるわけではありません。「金字塔」の実現に向けてコンセプトを実行しながら道筋を作り上げていくこと、これが二十一世紀を切り拓く校風をつくることに繋がると考えています。

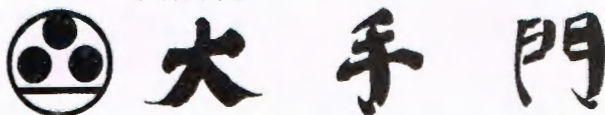
また、教職員だけでなくPTAや同窓会・学校評議員・外部評価委員・「世羅高校を育てる会」・各種後援会・国際交流推進会議などの本校を支援いただいている人々とのネットワークが出来ています。さらに、「昭和町学園通りをつくる会」や果樹部会、「六次産業ネットワーク」などの地域の人々との連携の拡大を図り、地域が一体となって「ありたい学

筋のないまま、私は駐日ケニア共和国大使館を訪ね、協力を要請し、その結果、ケニア共和国の先生や生徒募集の手がかりを得ることが出来、平成十三年にケニア共和国の英語講師、十四年に男女二名の生徒を受け入れ、十六年に更に二名の生徒の受け入れという道筋で展開しました。
 出来るかどうかではなく、生き残るために必要かどうか、初めからうまく行くという成算や道筋があるわけではありません。「金字塔」の実現に向けてコンセプトを実行しながら道筋を作り上げていくこと、これが二十一世紀を切り拓く校風をつくることに繋がると考えています。

筋のないまま、私は駐日ケニア共和国大使館を訪ね、協力を要請し、その結果、ケニア共和国の先生や生徒募集の手がかりを得ることが出来、平成十三年にケニア共和国の英語講師、十四年に男女二名の生徒を受け入れ、十六年に更に二名の生徒の受け入れという道筋で展開しました。
 出来るかどうかではなく、生き残るために必要かどうか、初めからうまく行くという成算や道筋があるわけではありません。「金字塔」の実現に向けてコンセプトを実行しながら道筋を作り上げていくこと、これが二十一世紀を切り拓く校風をつくることに繋がると考えています。

大田庄の自然と四季をお菓子につづり

和菓子処



世羅町甲山95 ☎22-5143

橋田製あん ☎22-0343代・FAX☎22-0634

(株)はした 橋田満樹 ☎22-3933・FAX☎22-3935

りゅうおう床土/かべ土・屋根土販売
土木工事業 (広島県知事許可般一12444号)

有限会社 龍王

代表取締役 後藤辰子

広島県世羅郡世羅町大字賀茂1024

TEL.0847-27-1231

FAX.0847-27-1232

学校だより

県高校駅伝 2年ぶり優勝

十一月七日(日)に比婆郡西城町のクロカンパークで行われた第五十五回広島県高等学校駅伝大会において、本校は二年ぶり三十四回目の優勝を果たしました。

一区ジョセフの区間記録を大幅に更新する快走で、早々に競技の流れを作りました。その勢いに乗り、各区間の選手は安定した走り、各選手は安定した走り、最終トップでタスキを繋ぎ、二位に一分三十秒差のコース大会新記録で勝利しました。

選手達は、十二月二十六日に京都で開催される全国高校駅伝大会に出場します。

今回は第五十五回の記念大会に当たり、各都道府県の代表四十七校に各地区代表十一校を加え、五十八校によって競うことになりました。



また、同日、男子に先駆けて行われた女子第二十一回広島県高等学校駅伝大会では、惜しくも第三位になりましたが、十一月二十一日に鳥取県の境港市での中国高校駅伝大会では、中国地方の上位三十四校の中、第四位に入り、その健闘ぶりは今後の全国大会への出場の可能性を予感させてくれました。

台湾への修学旅行

本校の二年生百七十八人が、十月五日、三泊四日の修学旅行に台湾に旅立ちました。

一昨年、本校と姉妹提携した台湾の大同高級中学校の生徒達との交流を始め、数々の史跡や文化施設等の見学を通して台湾の文化や歴史に触れ、見聞を広め、国際感覚を培うことに主眼をおいた旅行でした。

併せて、戦前に旧制世羅中学校に留学され、現在、台湾の政財界や各分野で活躍されている「台湾同学会」の人たちとの交流も視野に入れ、本校同窓会常任理事の小林新高さん(昭二十卒)を中心に同窓生ら六人もこの旅行に同行されました。

大同高級中学では、全校生徒による熱烈歓迎を受け、その溢れんばかりのパワーに全員大きな驚きと感動を覚えました。会場での歓迎式やアトラクシヨ



ンといった一連の行事を済ませた後、文化・スポーツの両グループに分かれて交流を深めました。言葉が通じ合わず、いささか苦労しているようでしたが両国の遊びや文化等を教え合ったりして有意義な時間を過ごしました。約三時間の交流でしたが、大同高級中学の皆さんはとても明るく活発で、また優しく接してもらい、その場の雰囲気をとて楽しんでいました。今回の旅行で大同高級中学校の生徒達と交流が出来たことは本校の修学旅行生にとっては何にもまして貴重な体験になったと思います。

また、台湾の代表的な名所の龍山寺や故宮博物院などを訪問して、台湾の歴史や文化を学ぶことができたのも幸いでした。

今回の修学旅行を通じて異国の同年代の人々と親しく交流し、異文化に直に接した生徒達が、この体験を世界的な視野に立って考え

行動できるグローバルな人間に少しでも近づきつけかけになることを願って止みません。

第二外国語講座 の開設

規制緩和による学校運営の弾力化と止まらぬ少子化現象に、各校は生き残りをかけて特色ある学校を目指した取り組みを続けています。

本校においては、学力向上に向けて、週当たり三十五単位の授業確保のため、いち早く二学期制を導入するとともに英語・国語・数学の教科において習熟度別・少人数授業を実施し、特進クラスを導入してきました。また、地域に貢献する意欲と実践力を培うために、地域のスペシャリストを活用しての「世羅学」の学習、日本を含めた国々の課題解決に貢献する人材を育成するために情報機器を活用した高校・大学が連携した「世界学」の学習も行っています。

さらに、今年度からは「第二外国語」の講座を設け、「中国語」・「韓国語」・「スペイン語」・「ポルトガル語」の授業を選択制で普通科の二年生で実施しています。一週当たり連続百分の授業で、ネイティブスピーカーが指導に当たっています。生徒の間で好評で、学習を楽しんでいる様子が見られます。

より美しく明日へ

株式会社 TAMAYA GREEN co.ltd.



タマヤグリーン

代表取締役 玉谷邦宏 (H2年卒)

広島県世羅郡世羅町本郷661-1

TEL(0847)22-3001(代) FAX(0847)22-2228

E-mail: tamaya@ninus.ocn.ne.jp

CAFE&TERRACE

絵麗顔都

TEL. (0847) 22-2626

せらの里

TEL. (0847) 22-3838

留学生紹介

今年、ケニア共和国から二人の男女が、本校の留学生の仲間に加わりました。ジョセフ・ギタウ君とテレシア・ワングイさんです。

両名とも一月に來日し、本校の学校生活に慣れるための体験入学を終えて、四月、生産情報科に入學しました。

二人は真面目でマナーの良さなど、私たちが模範にしたい点が多々見受けられます。

すでに、コミュニケーションがうまくとれるほどに、日本語が上達し、学校や寮での生活にもすっかり馴染んでいます。

陸上競技部では、長距離を得意とし、ジョセフ君は今年の県高校駅伝大会での優勝の立役者になりました。テレシアさんについては、国体を始め数々の大会で好成績を残しています。また、ケニアでは中学時代に華やかな実績をあげ、抜群の潜在能力は立証済みです。

二人には、コンピュータの高度な技能を習得したいという意欲と、将来は長距離ランナーとして国際舞台で活躍したいという共通した大きな夢があります。



ジョセフ君



テレシアさん

同窓生より

半生期を

職業人として生きて

幸谷 幸(昭17女卒)



昭和十七年の女学校卒業頃には、だんだんと警戒警報が

鳴る様になりました。父は「中支」に行っていました。私は進学はお金のかからない、卒業後は比較的給料のよい師範学校を望んでいました。甲山高女より四人受験し、二人合格して入学しました。卒業後は甲山小学校・同中学校と勤務しました。

昭和十九年に父が帰ってきましたが、同十二年に急死し、私は教員(当時、月給三千円)をやめるのは惜しかったのですが、後を継がねばならず退職し、木材業を継ぎました。

当時の学校は、理想を持って夢中で勤務が出来ると思っていました。が、教科書は新聞紙かパンフレット様のもの、また何を筋を通してよいかも分からず、教育の淋しさを痛感しました。しかし、父母の過ごした苦しい毎日を見てきた私は、父の死により教員の理想が破れたとはいえ、何時までも夢のようなことを言ってはおられず、

結婚し、家にいる母に教えを受けることに致しました。家庭の平和は、みな協力が必要ならば出来るものではない。—こんな平凡なことがこんなにも難しく、また、過ぎてみればこんなにも素晴らしく感じられるとは思っていませんでした。理想・夢は確かに大きいほど素晴らしく、また持つべきだけど、自分が住んでいる現実の世の中の理想であって、わがままな寝ている時の夢のようなものであつてはならない。私自身を取り巻く人々と共に讚え喜び合える理想。素直になり努力して一日々々足を地につけて踏みしめていく。苦しくつらい人生でも自分の力でつかみ取ったものは光り輝いて見えるに違いない。明るい毎日を送ろう、素晴らしい家庭を守ろう。

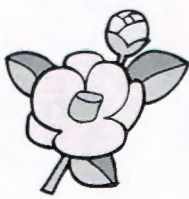
そういう思いの働いた矢先、昭和三十六年五月二十五日、頑張っていた自分が出来るようになっていた主人が、心臓まひで亡くなりました。終戦後の方向の読めない世の中で懸命に働き、優しい父親のイメージを残して仏となった主人のことを思い、私は後継者となりました。

その頃、社長は田舎では私だけだった気がします。木材業の会議に出席しても、荒い言葉遣いの方々がおられ、受け答え出来なかつたことを覚えていてます。男でも女でも、生まれて死んでいくという

うことでは違いはない。私は明るく強く生き抜いた母の一生を見聞きしたまま社長の知恵とさせてもらい、感謝しています。

当時流行の、「ジーバ―抜き」を願って嫁ぐ人もいましたが、めまぐるしく変わる世の中に遅れまいと必死で生きてきた高齢者の言葉に耳を傾けてあげると、その人の姿が読み取れて、何ものがそうさせているのか、不思議な力に触れる思いがします。一生懸命育てた子どもに感謝され、いたわられて一生を送っていく姿こそ女の生涯ではないでしょうか。

遙か昔のことですが、小学校五年・六年と受け持った教え子が、広島で教員となり、勤めを終えて退職した日、「私は受け持つもなかった時から先生のような教員になりたい」と思い、念願通り教員となり、この度退職しました。」と、ベストを編んでお菓子を添え、食べて休んで下さいと送ってくれました。私は教え子の心を考えずに、涙が出た。また、教員らしくなかったのに有り難うよ、と思ったことでした。次々と述べましたが、先輩の方々に感謝の気持ちいっぱい静かに筆を置きます。



O A 機器・事務用品・学用品 } 卸・小売 オフィス家具・教材教具・教科書	<h1>組田真</h1> <h2>組田真</h2>
<h3>森田尚文館</h3>	代表取締役 真田英治
森田 努 (S29年卒)	広島県世羅郡世羅町大字寺町967-1
世羅郡世羅町 TEL 22-0136(代)	電話 (0847) 22-0488
FAX 22-3051	F A X (0847) 22-3653

「二六会」大阪大会に

出席して

松尾

清(昭26高卒)



六月六日、大阪など近畿地区在住の方のお世話で、昭和

二六年卒業同期会が開かれました。多くの方は広島から、遠くは福岡、新潟からの参加で四十三名が集まり、東京二六会からも金尾、西山(暮日)、浜田と小生の七名が、梅雨入りの当日の朝、会場の「大阪弥生会館」に到着し、待つてくれていた旧友達に合流しました。

昭和二十六年卒業生の会を「二六会」と称し、当番幹事が時には歳の節目を記念して開催してきた同期会は今回が五回目でした。

初回は、還暦の年を迎えた時、会場は世羅の郷甲山で開き追年して二回目の八田原「ふれあいの里」の会場で、三回目は「東京山水楼」で開催。そして更に二年後には「古希」を祝って広島市内の「鯉城会館」で開催し、そしてこの度の大阪大会が五回目になりました。

大阪大会を企画、準備中の初期に不幸な出来事がありました。代表幹事の神田哲郎氏が急死されたのです。同窓会出欠の返信用ハガキを同封した案内状を受け取って

その数日後、東京二六会員からの電話で世話役の神田氏の訃報を知らされてビックリしました。出席のハガキをどなた宛に送ればいいのか戸惑いましたが、それにしても人間のはかなきことは、老少不定の境とは申せ、いたたまれない心痛の思いでした。

後で聞いた話では、案内状はずでに出来上がっており、投函を差し止めて、代表者名を書き替えることすら出来ないほどの急なご逝去であったことを知り、残りスタッフの方々の心労を察し上げました。

大会は、京楽氏の司会で、和木代表幹事の挨拶に始まり、和やかな中に、お互い世羅大田の郷に思い出話が尽きず、河内音頭などのアトラクションで会はずらに盛り上がり、時の過ぎるのも忘れる一時でした。

宴のお開きにあたり、次回は福山での再会を誓って、地元在住の丹下(岡戸)一夫氏も快く受けていた、だいて散会しました。

終わりに恩師の近況を知ることが出来ましたので報告します。懇親の席に歌集「峡の旦暮」と印された立派に装丁された一冊の本が回ってきました。高校当時のC組の担任、藤井志郎先生の自作短歌集でした。一六〇ページ一杯に歌が編集されていました。

先生は、六十歳を過ぎて短歌界に仲間入りされて、以来二十年余

り短歌人の隆昌に尽力をされながら、元気で甲山の赤屋に奥さんと一緒にご健在です。

歌集のあとがきに「誰にも老年がやってきました。生命の大切さ、生の喜びを味わいつつ、私の作はすべて老いを歌って……」と記され歌を添えてありました。

「楽しみは、ほかにこれとて何あらん。老いを歌いて、今は惑わず」誰もが例外なく年老いていく身です。殺伐とした世相に変わろうとも、自らが心にゆとりと何かの生きがいを求め、生涯の情操に努めなさいと未だに教えを戴いているように受け止めました。先生が何時までもご健在であられますよう祈念申し上げます。

そんなこんなで五十年

兼丸 一美(昭34高卒)



原稿の依頼を受けたのが十月、奇しくも新生世羅町が

誕生した月。何か因縁めいたものを感じながら、五十年前、私が定時制夜間部へ入学したときのことを思い出しながら書いてみようと思う。

昭和三十年一月、大見村・西大田村・東大田村の合併により「世羅町」が誕生。この年、私は世羅町立大田中学校を卒業し、どうし

ようかと考えている時「あんまり勉強は好きでないらしいし、弟も五人いる。家は建てた、百姓は広いし、本人がどうしてもと言わにゃあ、百姓の手伝いをさせようやあー。」父母が夜話に私の事を話しているのを盗み聞きし、「しめた、学校とは縁が切れた。よし、家の手伝いをするという事にしてボタンコ(自動三輪車)を買ってもううちやろうてえ」と、とんでもない事を考えついたものである。母家を建て、それどころではないはずの時、無謀とも思える願いを両親が聞いてくれるはずがない：はずだったのに……。

ある夜、「こりゃーよう聴けえよ。世羅高にゃあ夜間部があるげなけえ、それへ行けえ。そうして家の手伝いを骨になつてやれえよ！」父の一喝であった。

病弱で牛耕すら満足に出来ない父であったが、農家の長男としての私にかけられた期待の如何に大きな事であったか。その時の父の年齢を遙かに超している私であるが、その時の父の気持ちが良い分り、今、涙の出る思いである。

それは「氣」の負けた父が、免許もない十五歳の息子に一金十五万円也のボタンコを買う気になつてくれた事でよく分かる。良心の呵責と嬉しさが半々だった。世羅高の夜間部へは大田中の同級生も十名くらいいて大安心だった。昼は荒起こしや家の壁塗りの

株式会社 **田中商店**

代表取締役 **田中信博**

TEL (0847) 22-0026

健康で住み心地の良いお部屋造
家屋を守る白蟻消毒

株式会社 もみの木畳店

世羅郡世羅町 TEL (0847) 22-1426(代)
FAX (0847) 22-1893

手伝いをしながら、作業服を学生服に着替え、自転車通学する。入学した時は四十数名いたのが、二年生終了時には半分になり、昭和三十四年卒業時には十七名となっていた。

だいぶん学校にも慣れた六月の中頃だったか、為清先生が教室に入ってくるなり、「今日は皆さんに良いニュースを伝えます。大田校の人はよく知っている人が転入してきますので紹介します。」と言われるか言われないかの時、ガラーと戸が開いて紺の制服で靴を大きく振りながら大声で「こりゃ兼よ、来たどー」と言っに入って来たのは、つい先頃まで三原工業へ通っていた同級生の実川滝雄君だった(現世羅重機工業の社長)。

私は内心、「こりゃいいもんが転校して来たわい。実川君こそ自動車好きな連れじゃー鬼に金棒とはこの事よ。」と喜び勇んだ。二人共、ボタンコがあつたので話は合うが、免許がない。為清先生の解析の時間は二人共、静かにしていたものだが、漢文の時間になると、自動車の話ばかり机をつけてヒソヒソ。ある夜、とうとう二人は教室から出とれということになり、暗い運動場へ出て、「免許を取りにいっ行くか。二人一緒に行かやあ、広島の大芝の試験場がよう分からんよの。」などと話は尽きない。結局、十二月十九日行つて受検、二人共一発合格。

十二月二十三日に免許をもらった。私は、二十三歳で自動車の免許はトレーラーを除いて全部もらい、役場・農協・水道組合などに勤務し、現在は炭焼き・郷土史・世羅地方の観光案内などを行っているが、学校の暗い蛍光灯の下で火鉢に手をかざし、皆さんで、米が一俵せめて五千元になつてくれればと言つていた頃が懐かしい。

(追記。勤めをしていた頃から竹やぶの掃除を兼ねて竹炭焼きをしていた。折からの健康志向と、マスコミに度々取り上げられた事もあり、定年頃から急に需要が伸び始め、炭窯もワンタッチ一日一窯をベースに試行錯誤を重ねて自分流を作製、年中無休で使用している。木炭の需要も多く、竹炭と半々で製造販売している。一方、歴史と写真の好きな私は、三次市の「菁文社」が発行している季刊誌「げいびグラフ」の手伝いをし、世羅郡内の民話伝説、廃たれ行くものを活字と写真で残す、そんな仕事を二十八年間やつている。

また、私の得意とすることは、「世羅郡内巡り」で、「目線を下げてじっくり探索すれば意外な発見がある」をテーマに、バスの運転とガイドをしながら昭和六十三年から八十四回、約千三百人余の町民を案内している。

我が家は築三百年余の茅葺き屋根で、昨年十一月八日、全国カヤ葺き屋根サミットが我が家で行われ、東京方面からも来られた。古書・クラシックカーその他も色々ある。是非お越しを。

出会い

山根 富恵(旧姓西)(昭48高卒)



世羅高校を卒業して、三十二年になり、高校生活の思い出は、かなり記憶から薄れてしまいました。今回、原稿を書く機会を与えて頂き、昔を懐かしく思い出しました。

私は、勉強もクラブも中途半端に過ごした三年間であつた様に思いますが、しかし、多くの仲間と出会い、熱心に指導して下さつた先生方との出会いがあつたことが素晴らしい思い出と感じています。その出会いを今も大切にしています。

世羅高といえば、駅伝です。私が通学していた時は、丁度全国高校駅伝で世羅高が優勝した年でした。それに刺激されてか、陸上部だけでなく、体育の時間は皆よく走つたものです。「走らされた」の方が本音かもしれません。でも、走り通した時の満足感は今も忘れていません。速い遅いに関係なく、走り切つたことは色々な面で強い精神力へと繋がつて行つたと思います。少々の事ではへこ

たれない精神力は、高校三年間で学び得たものです。高校卒業後、短大へ進み、自分の目指した道へ就職しました。職場では一番若く、色々なことを教わりながら、毎日を楽しく過ごすことが出来ました。でも、失敗して落ち込んだり、泣いたりした事もありましたが、仲間に元気をもらいながら、二十七年間、仕事を続ける事が出来ました。今、私の子どもが世羅高でお世話になっております。私も夫も世羅高出身なので、大変喜んでいます。校歌を聞くと、とても懐かしく高校時代が思い出されます。文化祭・講演会・演奏会・体育祭等々の学校行事には、なるべく参加し、多くの方との出会いを大切にしたいと思つています。昨年は、地区役員をさせてもらい、学校へも何度か足を運びましたが、そのことで生徒の姿を直接見る事が出来て良かったと感じています。色々な行事を見る度に感じる事ですが、生徒一人ひとりが何でも一生懸命やつている事です。高校ぐらいになると、ふざけたり照れくさがつたりして、だらだらし勝ちですが、皆、真剣にやつています。保護者としても安心して見学出来、心から声援が出来ます。子ども達を取り巻く昨今の悲しい事件や事故のニュースが多い中、我が母校は心配ないのではないかと感じています。そんな学校で、

美しい写真を真心でお届けする
デジタルプリント専門店
阿部写真館
阿部秀雄
世羅町本通り
(TEL・FAX)0847-22-0213

進物の玉浦

☎0847-22-1107
FAX.0847-22-1567



〒722-1121
世羅郡世羅町西上原612-2
営業時間/AM8:00~PM7:00
年中無休



我が子が毎日楽しそうに高校生活を送っている事を何よりうれしく思いますし、我が母校の誇りでもあります。生徒達が今、自分たちの目標に向かってまっしぐらに進んでいる様子がうかがえます。

私自身は、高校生活の思い出が薄いのですが、子どもには今でないと出来ない事をしっかりとやってほしいと思います。自分の求めるもの、やりたい事を見つけ、多くの出会いをつくり、悔いのない高校生活を送ってほしいものだと思います。

最後になりましたが、世羅高並びに世羅高同窓会の益々のご発展とご活躍をお祈り致します。

地域だより

東京校友会

東京校友会は、平成十六年十一月二十一日(日曜日)に荒川区東日暮里のホテルラングウッドで総会・懇親会を開催しました。総会では、経過報告および会計報告、また平成十七年度事業計画や役員改選などを行い、続いての懇親会では終始、和やかに歓談し楽しいひとときを過ごしました。この会は今回で二十六回目で六十名の参加がありました。

◎「とうきょう世羅」のTシャツの作製

曾根先輩のご尽力により、この度「とうきょう世羅」のTシャツを創りました。

素材は綿五〇%、ポリエステル五〇%で、ボディは白地に半袖胸に「とうきょう世羅」とグリーンでポイントを入れました。袖には西スポーツのロゴが入りました。素材は柔らかく吸湿性、伸縮性に富み、シンプルで着心地の良い仕上がりとなりました。サイズは、

M (胸囲92cm、身長170cm)
L (胸囲96cm、身長175cm)
O (胸囲100cm、身長180cm)
で、M・L・Oとも1枚1500円で



今回の総会でも会場で販売しましたが、売れゆきは上々で、クラス会のおみやげにと着まゝとめてお求めいただいたり、知人、友人へのプレゼントとして数着まとめお買い上げ下さった方もあります。売上の利益は、当校友会の活動費として有効に使わせていただきます。積極的に求めのうえ、スポーツに、行楽に、世羅を懐かしみながら着用くだされば幸いです。

近畿同窓会

副事務局長 東 信司(昭32高卒)
近畿同窓会は、二〇〇三年七月以降、役員会を六回開催し、母校の情報、役員の後継者のことなどを論議してきました。「母校の情報」については、特に駅伝への関心と期待が強く、少ない情報を手がかりに必ず議題になっています。母校からは、できるだけ多くの情報を発信していただくよう、お願ひします。

また「駅伝カンパ」依頼・本部会報・総会案内などを封入し、会員へ送付する作業は、役員会の大きな行事ですが、二月・四月の二回行っており、送付数は五六〇〜五六五通となっています。

二〇〇四年六月十三日、大阪「大東洋」で、田邊校長、仁田先生・村上先生(監督)・小島会長をお迎えして、四十三名出席し総会を開催しました。規約を改正して、新たに「常任幹事」を役員とし、松尾千九三会長以下二十名の役員構成となりました。「常任幹事」には昭和五十年卒の男女十名が指名され、平均年齢は大幅に若返り、今後の活動が期待出来ます。ほかに「学年幹事」は三十名です。また、「広島県学校同窓会関西連絡協議会」などの活動も増加して、同窓会収支圧迫のため、年会

費を2000円に引き上げ改定しました(前年度会費納入者は、二三名です)。

呉支部

呉二河球場に
世羅の涼風が吹き抜ける”
世羅の集い

(世羅高校同窓会呉支部)
会長 大原重徳
夏の高校野球広島県予選で、世羅高校は三回戦まで勝ち進んだ。三回戦は呉二河球場であった。対戦相手は戸手高校。

球場に駆けつけると、スタンドは学校関係者と少数の生徒と選手と保護者及び我が会員二名。スタンドの劣勢に比して、選手の健闘は凄まじく、七回は三点を加えリードしたが、八回は逆転され、五対三で惜敗であった。敗れたとはいえ、世羅高球児は見事であった。何よりその一生懸命が素晴らしかった。

試合終了後、勝者のナインはホームベース上に並ぶ。我が世羅高ナインはダッグアウト前に整列。戸手高校の校歌が演奏される。お馴染みの光景である。

このとき、世羅高校の応援席の全員が起立。こんな風景、最近滅多に見ない。選手もよかつたが、応援席も見事であった。

炎天の二河球場に、一陣の世羅の涼風が吹き抜けていった。

スーパーマーケット

白谷屋

■本部 世羅郡世羅町大字西上原字鎌倉880番地5
TEL (0847) 22-2828代
FAX (0847) 22-2665

パオ

甲山ショッピングモール
世羅町西上原
TEL (0847) 22-3820

閑話休題

「世羅の集い(世羅高校同窓会呉支部)」は、六十二名の小さな会である。恒例の総会・懇親会を四月十七日に行った。懐かしいふるさと世羅の話、それぞれの近況など話に花が咲いた。

本部だより

総会報告

平成十六年度世羅高校同窓会総会は八月十五日(日)出席者三十六名で世羅町本郷「玉乃家」で開催されました。小島敏文会長・田邊康嗣校長の挨拶で開会。続いて友平勝土東京校友会幹事・松尾千九三近畿同総会会長・小池哲馬三原尾道支部長より祝辞を頂きました。

- ◆総会議事
 - ①平成十五年度事業決算報告・監査報告
 - ②平成十六年度事業計画
 - ③平成十六年度予算案承認
 - ④百十周年記念事業実行委員会と同窓会名簿作成について承認。
- ◆陸上競技部・野球部の現況報告。
- ◆懇親会
 - 記念撮影の後、井口紀介幹事長の挨拶により懇親会が始まりました。今年度は、参加者が昨年よりも少なかったこともあり、

司会者の計らいで出席者全員にスपीチをお願いしました。それぞれが学校時代の思い出や日頃の母校への思いや現況を話され、賑やかな懇親会となりました。

今年度は東京校友会から友平・後迫・金尾・井藤の四氏、近畿同窓会から松尾・鍛冶谷・河野・金行・塚本・深串の六氏が帰郷を兼ねて参加下さり、親睦を深めることが出来ました。

お世話を頂いた皆さん有り難うございました。
☆本校は平成十八年には創立百十周年を迎えます。記念事業実行委員を中心に関係者で準備に着手したいと考えております。

同窓会員名簿は、総会後、業者を決定しすでに作成作業に入っております。年明けには会員の皆様を確認の葉書が届くと思います。その節には、是非ご協力のほどよろしく願ひ申し上げます。

- ◆世羅高創立百十周年記念
 - 実行委員長 田中 翠(同窓会理事S19卒)
 - 実行委員 阿部玲子(同窓会副会長S29卒)
 - 倉橋憲昭(同窓会副会長S40卒)
 - 栗森武文(同窓会副会長S40卒)
 - 森田 努(同窓会監事S29卒)
 - 門脇泰弘(同窓会監事S34卒)
 - 小林新高(同窓会常任理事S20卒)

- 世羅高創立百十周年記念
 - 実行委員長 田中 翠(同窓会理事S19卒)
 - 実行委員 阿部玲子(同窓会副会長S29卒)
 - 倉橋憲昭(同窓会副会長S40卒)
 - 栗森武文(同窓会副会長S40卒)
 - 森田 努(同窓会監事S29卒)
 - 門脇泰弘(同窓会監事S34卒)
 - 小林新高(同窓会常任理事S20卒)

- ・黒木武彦(同S24卒)
- ・石原正俊(同S28卒)
- ・伊藤陽康(同S28卒)
- ・松島延江(同S28卒)
- ・井口紀介(同S33卒)
- ・井口公子(同S37卒)
- ・後藤審三郎(同S42卒)
- ・田淵一登(前本校事務局長S47卒)
- 各支部実行委員
 - ・秦 典三(東京校友会会長S20卒)
 - ・松尾千九三(近畿同窓会会長S25卒)
 - ・西谷 強(名古屋支部長S17卒)
 - ・金田東二(広島支部長S26卒)
 - ・大原重徳(呉支部長S33卒)
 - ・平林光司(福山支部長S27卒)
 - ・小池哲馬(三原・尾道支部長S38卒)
 - ・陳 恒盛(台湾同学会長S20卒)

- 実行委員(学校)
 - ・村上邦弘(学校主幹S46卒)
 - ・仁田賢次(同窓会事務局S44卒)
 - ・近藤 寿(同S56卒)

恩師訃報

○村田清矛氏(昭和19・世中卒) 平成十六年七月二十三日逝去。八十歳。甲山高女(昭22年5月〜24年3月)・世羅高校(昭24年4月〜53年12月)に数学科教諭として勤務(通算32年間)。本校教頭・上下高校・三和高校で校長を務められ、母校「創立百周年記念誌」編纂に中心的役割を果たされた。
○丹田雄蔵氏(昭和24・世高卒) 平成十六年七月三日逝去。七十

五歳。本校勤務は昭45年4月〜平成2年3月の20年間。社会科の名物先生として生徒に親しまれ、広高教組支部・生協本部理事など教職員組合の推進力でもあった。同窓会・陸上後援会の業務を担当し、同窓会名簿の編纂、駅伝の地元および近畿方面の募金活動に活躍された。

編集後記

「災」の一字が象徴するこの一年。(一)相次いだ自然災害。(二)「社会災害」とでも言うべき経済社会のひずみが生み出す個人や組織による犯罪。そして第三の災になりかねない国内・国際政治での充分な検討を欠いた政策の断行(「政治災害」とでも言うべきか)。新たな年が、これらの「災」を克服して「福」を回復する一年となることを祈らずにはおられません。会報第六号発行に当たり、今回も寄稿・広告提供その他で物心両面のご協力を頂いた方々、そして本紙に目を通して下さる皆様に心からの感謝を捧げます。
《編集委員》

- 伊藤陽康(昭28・高卒)
- 石原正俊(昭28・高卒)
- 仁田賢次(昭44・高卒)

医療法人 社団

藤原 眼科

〒722-1112 広島県世羅郡世羅町大字本郷1028番地
TEL 0847-22-0077(代) FAX 0847-22-2720
●ホームページ <http://www.cisnet.or.jp/~fujiwara/>

M Iwatani Life Up マルキチプロパンガス・管工事業 昭和シェル石油特約販売店・住宅機器 小型合併槽のことならおまかせください!

マルキチ株式会社

世羅郡世羅町西上原597番地

本社・甲山SS ☎22-1101
世羅中央SS ☎22-0662